

# 認証モデル事業の検証結果について

令和3年7月21日  
商工労働部経営支援課

## 1. モデル事業の概要

### (1) 申請状況等 (7/19 時点)

申請受付開始	令和3年5月27日
認証件数	26件
申請件数	170件 (辞退66件等を含む)
電話相談件数	611件

### (2) モデル認証店への支援等

- ・ 認証店について、県ホームページへの掲載などにより、高いレベルの対策が講じられていることを周知。
- ・ 認証に必要な設備の整備費用について、千葉市を通じて補助(上限30万円・補助率10/10)  
…補助対象：アクリル板、CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)濃度測定器、加湿器等

## 2. 認証基準

### (1) 概要

感染防止対策の徹底として、業種別ガイドラインや他県の事例よりも厳しい対策を求める基準とした。

#### <厳しい基準項目例>

- ・ 建築物衛生法の対象施設に限らず「CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)濃度の測定1000ppm以下」を必須項目
- ・ 「換気の詳細の図示」、「利用者の氏名等の記録」等の4つの選択項目を設定し、そのうち3項目以上を必須

認証を取得した飲食店からの意見は好意的なものが多く、また、利用者アンケートでの感染防止対策の呼びかけや声掛けに対して「不快に感じた」という回答はなかった。

市町村からは、現在の基準(モデル認証基準)と同一で良いというものが多かった。

## (2) 認証基準に対する意見

### ア 認証店の意見

- ・従業員の感染対策に関する意識が高まった。
- ・CO<sub>2</sub>センサーは、換気のアピールになり、客に安心感を与える。

### イ 利用者の意見

#### (質問項目への回答)

- ・感染防止対策のよびかけや声掛けを受けたことへの感想
  - 「感染対策に熱心なお店だと感じた」… 82%
  - 「不快に感じた」… 0%
  - 「特に何も感じなかった」… 18%
- ・今後、お店を選ぶ際、感染防止対策が十分にとられているお店にいかうと思うか
  - 「ぜひ行こうと思う」… 82%
  - 「あまり関係しない」… 18%

### ウ 専門家の意見

#### (感染症医療)

- ・少人数の同居家族なら同じテーブル内のパーティション等は求めなくて良い。
- ・従業員のマスク着用、体調チェック、手指消毒、手洗いの指導について、実施したことを記録する。
- ・従業員の休憩中、食事はできれば一人、難しければ食事中の話を禁止。
- ・座席の横にもパーティションが必要で、難しければ努力目標へ。

#### (建築環境)

- ・窓を開けて換気する場合、常時2方向を5cm程度、開けておく。
- ・CO<sub>2</sub>濃度測定は、空気がよどみやすい室内側でも測定する。
- ・CO<sub>2</sub>濃度を目安にするならば、CO<sub>2</sub>センサーを置いて、定期的にチェックし、記入する仕組みを勧めると良い。
- ・遮蔽板には直接的な曝露を防ぐ効果がある。一方、室内の空気の流れによどみを作り、換気の効果を下げる場合もある。

#### (飲食店事業者)

- ・基準にある利用客の体温の測定、座席間を1m以上確保すること等は、ほとんどの飲食店で対策として取られている。

### エ 市町村の意見

- ・現在の基準と同一で良い：42団体
- ・緩和した方が良い：10団体
- ・上乘せした方が良い：1団体、他1団体

### 3. 補助事業

#### (1) 概要

千葉市と共同でモデル事業を実施し、アクリル板等の設備購入経費に対する補助事業については、市を実施主体とした。

千葉市及び他市町村に補助事業に関し、意見を聞いたところ、実施方法について大多数の市町村から補助は県が一元化して実施すべきとの回答があった。

#### (2) 千葉市の意見

そもそも認証と補助がセットの事業であることから、補助事業の主体は県で行うことが効率的であり、窓口もワンストップ窓口で対応することが適当であるとする。

#### (3) 他市町村の意見

実施方法について、大多数の市町村が千葉市と同じ意見だった。

- ・ 県が実施主体となるほうが良い： 51 団体
- ・ 市が実施主体となるほうが良い： 3 団体      計 54 団体（千葉市含む）

### 4. 運用

#### (1) 概要

感染症対策の実効性を高めるための取組として、継続的な遵守状況の確認や利用客側へのメッセージの発信、対象店舗による今後の運用見直し等の意見があった。

#### (2) 運用に対する意見

##### ア 認証店の意見

- ・ 認証が広く浸透し、同条件で他の競合店も営業すべき

##### イ 専門家の意見

###### (感染症医療)

- ・ (認証店に限定せず) できていないところをどう指導していくかも課題

###### (行動科学)

- ・ 利用客側に基準を遵守してもらうための効果的なメッセージ等の提示

規範を喚起するメッセージ

…「みんな〇〇しています。」

「当店では、ありがたいことにみんな食後にマスクをして会話をしてくれています。」

社会貢献であることを伝えるメッセージ

…「あなたの協力が社会を守ってくれています。」

一貫した行動をとりたいと思う傾向を考慮

- …入店時に「〇〇にご協力いただけますか？」→「はい」
- 近親者を思い浮かべてもらう
- …子どもや家族を想起させるポスターの掲示

#### ウ 市町村の意見

- ・ 認証後も定期的に感染対策が実施されているか確認を行うことで、実効性を高める運用としていただきたい。
- ・ 認証制度で差別化を図ると同時に、要請に応じない店舗への指導を強化していただきたい。
- ・ 見回りや確認作業が必要であれば積極的に協力していきたい。
- ・ 認証基準については、新型コロナウイルス感染症の感染状況やワクチン接種の状況に応じて、適宜、緩和や強化を行っていく必要があると考える。また、基準の内容変更は、事業者の営業に影響を与える事項であることから、変更を行う際には、実施までに余裕をもって情報を公開していただきたい。

## 5. インセンティブ

### (1) 概要

厳しい認証基準を設けているのだから、時短緩和などのインセンティブを設けるべきとの意見があった。

ただし、専門家からは継続的な遵守状況の確認の必要があるなど指摘があった。

### (2) 認証店の意見

- ・ 認証を広めるには、時短緩和や酒類提供の制限緩和のインセンティブを認証店舗に与える必要がある。時短緩和より酒類提供の制限緩和の方が飲食店側は、よりメリットがあるのでないか。

### (3) 専門家の意見

#### (感染症医療)

- ・ 県民へのいわゆる感染を広げない飲食としてのお願いを続けるとともに、市町村や事業者団体とも相談・議論しながら進めていく必要がある。
- ・ インセンティブを与えることは大切だと思うが、継続的に遵守されていることをどの程度確認できるかが鍵になるような気がする。

### (4) 市町村の意見

- ・ 認証基準の厳格化により、認証を受けた店舗には、時短措置や酒類提供自粛措置を緩和するなど、認証店舗とそうでない店舗の明確な差別化を図っていただきたい。
- ・ 認証を受けた場合の時短営業の緩和等のインセンティブの付与。

- ・ 認証を受けた店舗には必ず営業時間短縮等の緩和措置を行う制度を創設していただきたい。緩和等の措置がなければ、制度への応募は少ないと考えられる。

## 6. 結果として

認証基準については、全県展開にあたり、専門家の意見等を踏まえ一部を見直し、一層厳格な運用を行う。

補助事業については、市町村の意見を踏まえて、全県展開時は県が認証と併せて事業の実施主体になることとする。